



## 各学校で行われている、「障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習」とは…

### □意義

- ・障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育む。
- ・お互いを尊重し合う大切さを学ぶ。
- ・障害のある子供にとっては、積極的な社会参加につながる。
- ・障害のない子供にとっては、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながる。

### □目的

- ・相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む。(交流の側面)
- ・教科等のねらいを達成する。(共同学習の側面)

「交流及び共同学習ガイド」平成31年3月 文部科学省より抜粋

様々な活動を通して、子供たちが幅広い体験を得、視野を広げることで、豊かな人間形成に資することが期待されます。



小学校及び中学校学習指導要領においても、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。(第1章 総則 第5 学校運営上の留意事項 参照)

上記の意義を理解し、目的を達成するために、現在各学校で実施されている交流及び共同学習の在り方について、以下のチェックリストで確認し、「△…十分ではない」部分については改善しましょう!



## 交流及び共同学習チェックリスト(特別支援学級担任及び交流学級担任用)

現状を確認してみましょう。(○…できている △…十分ではない)

I 事前準備	
	特別支援学級担任と交流学級担任とで、週案や授業内容等の共有をしている。
	特別支援学級担任と交流学級担任とで、交流及び共同学習の事前打ち合わせを行い、必要な情報を共有している。
	特別支援学級の児童生徒本人、保護者(家族)の思いや願いを聞き取り、交流及び共同学習に反映させる工夫をしている。
	交流学級の児童生徒が特別支援学級の児童生徒について理解できるよう工夫している。 (好きなこと、苦手なこと、コミュニケーションの方法、必要な支援や協力の仕方を事前に伝える等)
	特別支援学級の児童生徒が、交流学級に帰属意識をもてるよう工夫している。 (机・いすの準備、作品などの掲示等)
II 目標設定の工夫と学習活動の変更調整	
	特別支援学級の児童生徒と交流学級の児童生徒それぞれの実態に応じて、交流及び共同学習の目標や教科領域の目標を設定し、目標に向かって取り組んでいる。
	特別支援学級の児童生徒が学習に取り組みやすいよう、活動の設定を工夫している。 (参加する場面の設定、授業・学習活動の内容や方法の変更調整等)
	特別支援学級の児童生徒の、心理的・身体的負担を考慮した計画を行っている。
III 子どもの積極的参加のための活動の工夫	
	特別支援学級の児童生徒と交流学級の児童生徒が、相互に協力しながら取り組めるよう工夫している。 (ペア学習、グループ学習等)
	特別支援学級の児童生徒の実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。
	特別支援学級の児童生徒も交流学級の児童生徒も理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。
	特別支援学級の児童生徒も交流学級の児童生徒も、活動の中で自分に合ったやり方を考えたり選択したりできるよう工夫している。
	特別支援学級の児童生徒も交流学級の児童生徒も自分の思いを表現できるよう、発表や表現の仕方を工夫している。
	授業場面のみでなく、休み時間や生活場面でも、児童生徒同士が主体的に関わりをもてるよう工夫している。
IV スタッフの役割と子どものサポート	
	特別支援学級担任、交流学級担任、支援員、保護者等の関係者が、交流及び共同学習での役割を確認し、目標の達成に向けて取り組んでいる。
	交流学級の児童生徒が多様性を尊重する心を育むことができるよう、交流学級担任自身がモデルとなることを意識して特別支援学級の児童生徒と関わっている。
V 事後学習と評価	
	交流及び共同学習の後に、特別支援学級の児童生徒や交流学級の児童生徒が学習を振り返ることができるよう工夫している。
	交流及び共同学習の授業・学習活動についての担任や児童生徒の振り返りを、次回の学習に活かしている。
	交流及び共同学習をより充実させるために、間接的な交流に取り組んでいる。 (学級便りを届ける、お互いの学級の様子を伝える等)

鳥取県教育委員会「特別支援教育の手引」(令和2年3月)の図表を加工して作成

交流及び共同学習の実施に当たっては、文部科学省が作成している「交流及び共同学習ガイド」が参考になります。文部科学省のホームページからダウンロードできますので参考にしてください。

